OM日本ニュース　第92号　2025年夏号

Global

グローバル

三重県

P6

徳島県

P3

地方宣教と宣教協力

P4-5

石川県

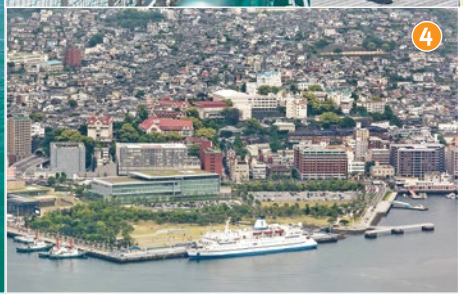
OM日本 Update アップデート

挫折の中の新たなる使命

OM日本 トレーニング・コーディネーター

予定外の必然

OMのミッションステートメント：私達の願いは、最も福音が伝えられていない人々の間で、イエスに従う者による生き生きとしたコミュニティが形づくられることです



❶ アジア航行用に使用されるOM船ドゥロス・ホープ号 ❷ ❸ ❹ 2014年、日本に寄港したロゴス・ホープ号（現在は大西洋地区航行用）の様子。 ❷ 列を作る人々と、渡り板を歩いて船内に上がっていく訪問者。 ❸ 船内にある世界最大の洋上書店を訪問する日本の方々。 ❹ 航空写真でみるロゴス・ホープ号。

船越 信哉　OM日本総主事

挫折の中の新たな使命

この3年間、OM日本代表の役割を続けることができました。そして2025年4月、4年目がスタートしました。

私はOMファミリーに毎月「祝福のレポート」を送っています。主がその月にOM日本にしてくださったこと、またOM日本を通して行なってくださったことを、皆で感謝し喜びます。また互いのために祈ります。そこに必ず書くことがあります。**「主が共におられる。自分自身に絶望したところから主の働きが始まる。私たちの願いではなく、主のみこころがなりますように。」**この文章はOM日本の歩みであり、また主が私の人生にしてくださっていること、そのものです。

現在、OM日本には**60名の宣教師が所属**しています。子どもたちも合わせると90名です。またこれから加わろうと来日の準備をしている宣教師たちがいます。

4つの地区「東北・関東・東海・北陸」で宣教しています。24の地域教会、また人口が減少している地域で協力宣教師として仕えています。私たちは「日本の教会の祝福になりたい」そして「日本人の救いのために用いられたい」と願っています。

昨年、OM日本に飛び込んできたニュースがあります。OM船「Doulos Hope号」より、「2025年夏に、日本を訪れたい。」Doulos Hope号は2023年にスタートし、アジアを中心に宣教を行なっている船です。

前回、OM船が来日したのは2014年、金沢港と長崎港でした。金沢港では46,411人、長崎港では33,323人が来船。遡ると、1975年8月にLogos号が初来日。その後、Doulos号、Logos Hope号が続き、日本の23の港で45万人を超える人々が船を訪れ、その人々に様々な形でイエスキリストの愛を伝えました。主がOM船を用いてくださった歴史があります。

「Doulos Hope号が来日する！」胸躍らせ準備が始まりました。多くの方々が期待して祈り、また協力に参加してくださいました。しかし2025年2月、Doulos Hope号より**「来日できない」との正式な報告を受けました。SOLAS(海上における人命の安全のための国際条約)、港のスケジュール、気候など、様々な理由から延期が決断**されました。

私たちはショックを受けました。大きく高い壁が目の前に立ち塞がりました。しかし主は、私たちの目をもっと上に、主に向けるよう語られました。そして私たちの見るべきものを見せてくださいました。その一つが、**新しい宣教地区のスタート『四国プロジェクト』**です。OM日本として、取り組むべきことが残されている…！

今回経験したことを糧にしながら、私たち**OM日本は「Doulos Hope号2028年の来日」を目指して取り組んでいます。**新しい宣教地区が増やされ、地域教会やクリスチャンと協力してDoulos Hope号を迎えたい。日本宣教の前進、リバイバルのために用いられたい！と熱く願っています。

「主が共におられる。自分自身に絶望したところから主の働きが始まる。私たちの願いではなく、主のみこころがなりますように。」

OM日本には現在60名ほどの宣教師が所属している

四国ミニストリーへの導き

ラム・カーワイ　（マレーシア出身）

これまで、ＯＭ日本は四国への数回にわたる短期宣教チームの派遣や、プレイヤーウォークを行ってきました。2026 年 4 月より遂に、ＯＭ四国チームの長期宣教の働きが始まります。

私たちが仕えている神様はビジョンを与える神様です

「神様はOM日本に、新しい地域で新しいチームを立ち上げるというビジョンを与えてくださいました。是非、このビジョンを引き受けることについて祈っていただけませんか？」2022年にOM日本のフィールドリーダー、船越信哉さんからこのような依頼を受け、私はびっくりしました。２０１８年に来日して以来、私は奉仕している宮城県の登米市を離れることは考えていなかったからです。しかし、聖霊様の促しを感じ、私はこのことについてさらに神様に尋ねる必要があると思いました。

それから一年後、母国のマレーシアに一時帰国していたとき、私は癌にかかったことが発覚、手術を受けることになりました。手術室に運ばれるのを待っていた朝、神様は私に癒しの約束を与え、やり遂げるべきことがまだあると教えて下さいました。そのやり残したこととは何かと神様に尋ねると、ある思いがすぐに頭に浮かんできました。それは、日本の新しい地域で新しいチームを立ち上げることでした。

神様の約束どおり、私は完全に回復し、3ヵ月後に日本に戻ってきました。そこから、神様がOM日本に与えたビジョンを実現するために、チームメイト達と共に神様を求める旅が始まりました。

人は心に自分の道を考え計るが、その歩みを導く者は主です

OM日本は４つの地域（北陸、東北、関東、東海）で８つのチームが活動しています。多くの祈りを経て、神様は私たちを四国への可能性を探るように導かれました。2023年１１月、私たちは祈りと教会訪問のため、四国への第１回目のビジョントリップに出発しました。2024年４月に新しいチームをスタートしようとしましたが、ビジョントリップ後の神様の御言葉は「待ちなさい」でした。

待つことは大変でしたが、神様のタイミングを待つ従順さ、信仰と粘り強さを与えてくださった神様に感謝します。２０２４年４月、OM日本は四国ミッションプロジェクトを開始し、プロジェクトチームは毎月オンラインで四国のために祈り、神様の計画とタイミングを求めてきました。神様は私たちのために多くの扉を開いてくださり、教会と良いつながりを築き、また四国への短期宣教チームの派遣を開始することもできました。

今年３月の第３回目のビジョントリップで、神様は活動場所とその開始時期、またチームメイトのジョアンナ・シュツさんが新しい四国チームに加わることを明確にしてくださいました。私たちは伝道と弟子訓練、アートミニストリーに重点を置き、2026年４月に阿波市（徳島）で新しいチームとして正式に開始することができるように準備しています。

私たちOM日本は、四国の教会と牧師の方々と共に神様に仕える機会を与えられたことを感謝し、喜びと謙遜の気持ちでいっぱいです。神様が導いてくださる多くの教会への祝福となることを願っています。四国におけるOM日本のビジョンの実現に向けて、皆様もご一緒にお祈りしていただければ幸いです。すべての栄光が神様にありますように。

❶ 四国チームの宣教師達。写真左：マレーシア出身のカーワイさんは日本の大学を卒業し、日本語も堪能。写真右：アメリカ出身のジョアナさんはアフリカ大陸で育ち、現在OM日本アートミニストリー代表。 ❷ OM四国の主要な働きの一つはアートミニストリー。徳島県で、この壁アートのようなプロジェクトに関われたらと願っている。❸ 国の天然記念物「阿波の土柱」の頂上から見た町の風景
❹ 地域の方々と触れ合える地元の商店街

石川県 能登支援プロジェクト

サイモン・ベック　能登支援コーディネーター

2024年元旦に能登半島を大地震が襲った。石川県にはOM日本の宣教師が多数おり、震災の翌日から支援活動が始められました。

2024年元旦に能登半島を襲った大地震から1年半が過ぎました。OM日本は2011年の東日本大震災のボランティア活動を行なった経験はあるものの、災害支援に特化された団体ではないので、どのように対応したらいいか、はっきりとは分かりませんでした。北陸地域にはOM宣教師が10人以上いますので、彼らと共に何ができるかと思いまいしたが、先ずは緊急物資を配るなど、できることからやり始めました。そして、いろいろな被害支援団体が駆け付ける中、能登地震キリスト災害支援会「能登ヘルプ」が立ち上げられ、協働体制が整えられていきました。その拠点となったのが、OMの宣教師でもある酒井信也師が主任牧師として働いている内灘聖書教会でした。被害を受けた教会員もいる内灘聖書教会は、能登支援の様々な働きがなされる上で欠かせない存在でした。

今までの働き

OMは能登ヘルプの働きがスムーズにいくために、実務を担当する働き人を約10か月間派遣し、ボランティア募集から管理まで、ボランティア活動を補助しました。能登ヘルプに参加してくださったボランティアの数は1年間ののべ人数で五千人以上。尊いボランティア活動に参加し、主の愛をあらわされた方々に心より感謝します。

私たちは日本各地また世界からの宣教師と短期宣教チームの助けを受け、初期段階における避難所への物資支援をはじめ、避難所での炊き出しなどを行いました。OM宣教師が他の宣教団体の宣教師たちと協力して立ち上げたグループを中心として、いろいろな場所で炊き出しの活動を行ってきました。30人前から始まった炊き出しは、2024年の年末で最大200人前までに増えました。ハードな働きだと思いましたが、被害を受けた方々のことを思いながら続けてこれたことを感謝します。この働きのハイライトは、被害を受けた方々を中心とした合唱団が生まれたことでした。年末に向かって歌を練習し、クリスマスパーティーではクリスマスソングを、同じく被災した方々の前で披露しました。その感動の歌を歌う姿は今も私たちの心の中に生き生きと残っています。

もう一つのOMの働きは、被害地域にある牧師先生たちをサポートすることでした。被害状況の報告などの理由で主日に出かけなければならない牧師先生の代わりに、礼拝メッセージを行ないました。この働きを通して、牧師達の災害支援の働きがスムーズにいくことを祈ります。

これからの働き

2025年に入ってからは、活動の中心が家財片付けから地域コミュニティ支援へとシフトしました。そして、これからの

❶ 地震発生後、すぐに始まった物資提供 ❷ 全国から送られてきた物資を置く倉庫 ❸ 災害支援の中心拠点となった内灘聖書教会 ❹ 炊き出しミニストリーに関わる他団体の宣教師や、外国人も含めたボランティアの方々。災害支援に国境はない

❺ 輪島市の教会でＢＢＱのお手伝いをするOM宣教師達 ❻ 石川県と富山県の北陸地域において、震災支援に関わるOM宣教師たち。左から順に、香港のマットさん、サイモンさんと奥さんのソナさん、香港のマンディーさん、韓国のヒョンギョンさんとキョンジャさん

船越信哉　ＯＭ日本総主事

震災後約12カ月間、他の団体や初めて出会うクリスチャンと協力し、能登ヘルプの一員として仕えました。「支援活動」は被災されたノンクリスチャンと直接関わる「宣教の最前線」であると強く実感しました。

● 聖書教会連盟　○ COG　● 単立教会
● 日本基督教団　● 聖イエス会　● ＯＭ事務所

OMの主な働きの方針として２つを挙げたいと思います。まず最初に、地域教会を支えることです。私たちＯＭは、被害を受けた方々と一番長く関係を作っていくのはその地域の教会であると考えます。しかし、被害地域の教会は小さな教会も多く、独自で支援活動を続けることに限界があります。このことを念頭に置いて、能登ヘルプや他の支援団体と協力しながら働いていきたいと思います。今まで取り組んできた働きには、Ｎ教会と一緒に仮設集会場での炊き出し(月１回)、教会での子供のための英語クラス(月１回)、Ｍ教会の仮設集会場でのカフェミニストリー（月２回)、Ｗ教会の中高生のための働きなどがあります。このような働きを通して地域の教会が少しでも元気になればと思います。

二番目は、バランス良い働きです。私たちは災害支援の中で、被災者との良き信頼関係が与えられることを願っています。そして何より、それを通して被災地に福音が証しされ、救われる人が起こされることを願います。詩篇126:5-6「涙とともに種を蒔く者は喜び叫びながら刈り取る…」とあるように、「熱心に働く」。また同時に、詩篇127:1-2の御言葉「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなしい。主が町を守るのでなければ、守る者の見張りはむなしい…実に主は愛する者に眠りを与えてくださる」とある通りに、私たちの熱心ではなく、主の熱心ですべてが行われますように願っています。イエス様の愛を分かち合うこの働きに、皆さんのご参加とご支援をよろしくお願いします。

能登半島地震と教会

能登半島地震は、2024 年 1 月 1 日に、石川県の能登半島地下 16 km、鳳珠郡穴水町の北東 42 km の珠洲市内で発生した内陸地殻内地震。地震の規模はM 7.6 で、輪島市と羽咋郡志賀町で最大震度 7 を観測した。この地震により日本海沿岸の広範囲に津波が襲来したほか、奥能登地域を中心に土砂災害、火災、液状化現象、家屋の倒壊、交通網の寸断が発生し、甚大な被害をもたらした。

また同年 9 月に発生した能登半島豪雨は、記録的な雨量により、河川の氾濫や土砂崩れが発生し、道路が寸断、集落が孤立するなど、地震の復興途上であった被災地に二重の災害をもたらした。

下崎香世　ＯＭ日本･事務局

2024年４月から約９カ月間、能登ヘルプのオフィスで事務の働きをしました。災害支援の働きに関わったのは初めてだったので、緊張と不安だらけの中、皆さんに丁寧に教えていただきました。能登ヘルプのワークリーダー達は、早朝に来て、深夜に帰宅する事もありましたが、彼らはいつも不満も言わず、喜んで人々に仕えている姿を見て、多くの励ましをいただきました。

ウォン･マット＆マンディ(香港)
ＯＭ日本･石川チーム

私たちは夫婦で、光塩ネットワークのヒカリ食堂という炊き出しの働きを、地震直後から行っています。たまに、片付けの依頼ももらいます。

広告欄　郵送料のコスト負担軽減のために広告欄をもうけました。広告掲載はＯＭ日本事務局 info.jp@om.org までご連絡を

さあ、みんなで広めよう。みことばを。
神のことばはますます広まり、増えていった。（新約聖書より）

コンサイスバイブル© アプリ

聖書を読んだことのない方が、聖書の概要と中心テーマを理解出来るように読みやすくまとめられた無料アプリです。
ノンクリスチャンのご家族やご友人にも、聖書の全体像をつかんでいただけるので、ディスカッションも始めやすく、
自信をもってお勧めできるアプリです。
https://concise.bible/ja をご参照ください。右下のQRコードからもアクセスできます。

一般社団法人 I.G Japan
〒980-0013　宮城県仙台市青葉区花京院1-2-15　仙台ソララプラザ3F
お問い合わせ:ja@concise.bible
WEB サイト:www.japaninitiative.global

コンサイスバイブル® はInitiative.Global(I.G)の登録商標です。
引用聖句はI.G が翻訳し、著作権を有しています。
翻訳は聖書全体ではなく一部(1,798 節)になります。

App Store　Google Play

「新幹線も、空港も、コストコも、イケアもない県。キリスト教にいたっては神学校も、バイブルキャンプも無い県、三重県」。私はそんな三重県のど田舎に生まれました。戦国時代からの集落の本家、神社での剣道、庭にある稲荷神社など、伝統宗教に囲まれながら育ちました。20歳でカナダに渡り、初めて教会を経験して、4年後に受洗。そしてカナダの教会から送り出され、海外宣教師として16年間活動。**2017年より、OM日本と共に、私が生まれ育った三重県の教会未設置エリアでの伝道を開始しました。**

しかし未伝地伝道を続けながら、日本の教会とつながる中、「日本の牧師たちは祝福を受けていない」と思いました。そして**「牧師が祝福を受ければ、教会も祝福を受ける。教会が祝福されれば、おのずと外向きになって、伝道に関われる」**という考えから、「牧師を愛する」をテーマに、複数の既存教会への奉仕を始めました。

当時、三重県に唯一存在した「北勢牧師会」を通じて、この奉仕を実践したところ、それが牧師会の活性化につながりました。**2019年には、南海トラフに対する災害対策のため、私たちは家族でキャンピングカーを借りて、南勢地域の諸教会を渡り歩き、**南勢の教会との関係形成の大きな一歩となりました。

そして2022年には「三重宣教ネットワーク（三重宣ネット）」を立ち上げました。三重宣ネットは、これまでに関わりを得られた、三重県の北―中―南―西（伊賀・名張）を縦と横につなぐ役割を果たします。この三重宣ネットを生かして、三重県の「祈りの地図」を作成したり、県内の若者の礼拝出席率を年代別に統計を取ったりして、三重県の状況を可視化して、諸教会と共有しました。

2024年、日本福音同盟（ＪＥＡ）から宣教フォーラムを三重で開いてみないかという打診を受けました。私は三重県で主が行われている教会協力の観点から、**「もし三重県でするのであれば、カリスマ派や福音派の間の見えない壁を取り去って行う必要がある。」**とお伝えしたら、「問題ありません。」との返事。

こうして、私と三重県内7人の牧師たちが委員となり、**三重県のキリスト教史上初の超教派宣教大会「三重宣教フォーラム」が実現。教派間の壁を、委員会のレベルから全てゼロで行いました。**2日間ののべ出席人数は約340人+オンライン参加者。またボランティアは各日それぞれ50人配置。全国29都道府県から、153以上の所属教会／団体が、新幹線も空港もない三重県に集いました。**テーマは宣教協力。宣教協力とは宣教のために教会が協力すること。**そのためには出会い／会話／繋がりを経ていかなければなりません。三重フォーラムはその第1段階に貢献することができました。

宣教フォーラムの真の目的は大会ではありません。その最終目標はあくまで宣教であり、救われる魂。ですから宣言しました。「来年は、このような大会はしません。大会の代わりに一緒につながって『宣教』をしてください」と。日本の教会はこれまでも宣教を行ってきました。しかしこれからは、宣教協力の最後の2文字「協力」がますます「要」となっていくと思います。

また2025年から、三重、奈良、和歌山県の3県で同時に行っていく宣教祈祷のムーブメント「紀伊半島合同祈祷会」を立ち上げました。紀伊半島には伊勢神宮、熊野信仰、天理教、高野山など、日本全国に影を落とす大きな霊の砦が数多くあります。戦に例えるなら、紀伊半島をとれば日本の霊的戦況が大きく変わると信じています。

日本の教会の状況は、80年前の世界大戦以降とは大きく変わっています。**文部科学省の宗教人口の統計では5年間でキリスト教人口が35%減。これは生物学的用語で言えば「絶滅危惧種」と同じです。**日本の教会が危機的とも言える状況の中、私たちOMも諸教会との協力体制を変えていく必要があるでしょう。都市部での働きと共に、ぜひ日本の地方県、地方農村部を覚え、どうかお祈りください。

宣教フォーラム in 三重では、最初から最後まで、とにかく宣教メッセージと交わりの時間を大事にしました。交わりを通して、聖霊が皆を宣教協力に導いてくださると信じます

予定外の必然

井上希　OM 日本トレーニングコーディネーター

コロナ渦の 2020 年 10 月、体調回復のために東南アジアのM国を後にした宣教師は、「しばらくの間はこの国に戻れないかもしれない」と感じた。それは現実となったが、主は新たな扉を開いてくれた

予定外の必然

コロナ渦の2020年１０月、体調回復のために、７年間奉仕してきた東南アジアのM国を後にしました。その時、「しばらくの間はこの国に戻れないかもしれない。」と感じました。翌年２０２１年２月１日、入院先に飛び込んできたニュースは、それを確信させるものでした。予感はしていましたが、私にとっては「予定外」でした。「元気になったらまたM国に戻り、御国のために全力を尽くしたい…」それが願いでした。しかし、振り返るとそれは全て神様のご計画の一部であり、必然であったことを今は確信しています。

どんな時も前を向いて

2021年は私にとってつらい1年でした。私の体は日本にありましたが、心はM国にありました。M国で働けないつらさや、大切な友達の危険な状況に対して祈ることしかできないジレンマと戦っていました。しかし、日本人のクリスチャンや教会にも、助けを必要としている人が沢山いるという現実を目の当たりにしました。「私はどうするべきでしょうか」と祈り尋ねたとき、神様は「あなたはもうすでに答えを知っている。」とお答えになりました。その時の平安を今でも覚えています。時を同じくして、OM日本から共に働くお誘いを受け、確信に繋がりました。「見よ、私は新しいことを行う」（イザヤ書４３章１９節）。暗闇にともされた一筋の光は、進むべき道を確かに示しました。「どんな時も、前を向いて歩んでいこう。」神様が必ず私を導いてくださることを再確認することができました。

トレーニングコーディネーターとしての働き

2022年、OM日本に所属し、早速始まったのが新しい組織作りです。今までの働きを基盤に、さらに効果的・効率的な組織を構築していこうと意見交換がなされました。その一つに、トレーニング部門の強化がありました。トレーニングコーディネーターの働きは、主に３つ。①日本から海外に宣教に行く方々へのオリエンテーション、②働きを終えて帰国した日本人宣教師のための「リエントリー・リトリート」、③海外からの宣教師が日本で働くための技術と知識を学ぶ「オンボード・トレーニング」の企画運営です。それ以外にも、長年宣教師として日本で奉仕している方々へのセミナーやワークショップの案内、日本語学習のアドバイスなども行います。感謝なことに年々OM日本で働く宣教師が増える中、トレーニング部門の働きは以前より多忙になっています。神様はその現状をご覧になり、共に知恵を出し合い助け合うことができる働き人を送ってくださいました。今は「トレーニングチーム」を結成し、メンバーそれぞれの賜物を生かして働くことができています。また、「トレーニング」をOM日本全体の働きとして受け取り、各部門が連携し合うようになり、沢山の祝福を受けています。

挑戦は続く

最初は手探りの状態で失敗の連続でした。国、育った環境、言語、文化、全て違う人達が「チーム」となるには時間、忍耐、努力、思いやりが必要です。今も試行錯誤を重ね、調整しつつ取り組んでいます。大変な働きではありますが、神様は私に「教える」賜物をくださっていると信じます。しかし、私自身もさらに学びをする必要があると感じ、OMが提供する学びに可能な限り参加しています。一人ひとりと真剣に向き合い、愛をもって接することができるトレーナーとなれるように祈っています。トレーニングを受けた方々が、置かれた場所で喜んで神様に仕え、受けた訓練が役に立ったと思えるよう、工夫と挑戦を続けていきます。

OMトレーニングセンターでの様子
❶ 短期宣教チームも宿泊 ❷ トレーニングセンターの外観 ❸ 入国したばかりの外国人宣教師が研修を受ける。帰国した日本人が振り返りの時をもつ ❹ これから海外へ旅立っていく新人宣教師が先輩宣教師の経験を聞く❺ 紙漉きなどの体験を通して日本の文化を学ぶ新人宣教師達

ミャンマー大地震への祈り＆義援金募集

2025年３月２８日にミャンマーを襲ったマグニチュード7.7 の地震後、死者が増え続けています。マンダレー市とザガイン市は多数の建物が倒壊し、壊滅的な被害がありました。崩壊したビルや建設物の下敷きになった人々など、地震による被害の全体像や正式な死傷者数はまだ確認されていません。ミャンマー軍事政権は、いくつかの被災地に非常事態を宣言しました。

- OM日本はこの地震に伴い、被災地支援のために義援金を受け付けています。
- 愛する人を亡くした人、いまだ家族や友人からの連絡を待っている人のためにお祈りください。
- この地域のOM宣教師やパートナー団体のため、彼らが平和と慰めをこの喪失の中で分かち合えるようお祈りください。

送金方法

このページの下部にある、ＯＭ事務所への献金方法に従ってお送りください

「神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある強き助け。それゆえ、われらは恐れない。たとえ地が変わり山々が揺れ海のただ中に移るとも。」（詩篇46:1-2　新改訳2017）

献金方法

ＯＭ日本では、下記の３つの項目で献金を受けつけています。

1. 世界中でおこっている紛争、災害の支援（ミャンマー地震、ウクライナ難民、トルコ地震を継続して受けつけています）
2. 日本から送り出されている宣教師へのサポート献金（宣教師の氏名を明記）
3. ＯＭ日本の事務局と活動資金

サポート送金先：

【ゆうちょから】
郵便振替口座：02100-0-24998
口座名義人：OM日本事務局

【他行から】
店名：二一九（ニーイチキュウ）
店番：219　当座預金
口座番号：0024998（OM日本事務局）

送金の後は、こちらのＱＲよりフォームを記入して送金内容を事務局までお知らせください。

その他のお問い合わせは事務局まで連絡ください。
電話：076-239-2830

OM日本・OM Japan
www.omjapan.org　fb.me/omjapan
info.jp@om.org　+81 (0)76-239-2830 (TEL&FAX)
〒920-0277石川県河北郡内灘町千鳥台２丁目394
OM日本会報紙　グローバル　第92号　2025年夏号
発行人：船越信哉　編集＆デザイン：近藤健二

OM（Operation Mobilisation）は、世界約 147 カ国で 3280 名が活動している超教派の国際的宣教団体です。OM は世界宣教のために奉仕者の育成と、最も福音が伝えられていない地域への伝道、そしてイエスに従うものによる生き生きとしたコミュニティが形づくられ、育成されていくことを目標にしています。